

(4) ぶどう

ア デラウェア(ジベレリン処理・露地栽培)

時期	対象病害虫	防除法	注意事項
8月下旬 (収穫後)	黒とう病 枝膨病 べと病	・キノンドー水和剤40/ ドキリンフロアブル	○ ブドウトラカミキリは8月下旬～9月上旬に盛んに幼虫がふ化し、直ちに茎に食入する。 ○ 薬剤は新梢に丁寧に掛けて殺卵、食入防止に努める。 ○ ハスモンヨトウの発生が多い場合にはフェニックス顆粒水和剤を散布する。
	ブドウトラカミキリ コガネムシ類成虫	・ダントツ水溶剤	
9月上旬～ 中旬	ブドウトラカミキリ	・モスピラン顆粒水溶剤	
11月下旬 (落葉直 後)	褐斑病 さび病	・落葉の処分	
12月～2 月(休眠 期)	晩腐病 褐斑病 黒とう病 ブドウトラカミキリ ブドウスカシバ コナカイガラムシ類	・巻ひげ、取り残し果梗の 除去 ・被害枝の剪除 ・粗皮削り	○ ブドウトラカミキリの幼虫は、結果母枝の芽の近くの変色部(黒褐色)の近くにいるので捕殺する。 ○ ブドウスカシバの1年生枝の被害部は、黒褐色に変色しているので除去する。 ○ 粗皮削りは雨あがりに行なうとよい。
3月中旬	ブドウトラカミキリ	・ラビキラー乳剤 又はガットキラー乳剤	○ ラビキラーは母枝、古つるに、ガットキラーは樹幹部及び主枝に薬液を散布する。
3月下旬 ～4月上 旬(萌芽 前)	黒とう病 晩腐病	・チオノックフロアブル	
	越冬病害虫	・石灰硫黄合剤	
5月上旬 (本葉3 ～5枚)	晩腐病 黒とう病 べと病	・デランフロアブル	○ 前年にフタテンヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマが発生した園では、第1世代幼虫の薬剤防除としてベストガード水溶剤又はコテツフロアブルを散布する。クワコナカイガラムシが発生した園ではベストガード水溶剤を使用する。
5月中旬 (第1回ジ ベレリン 処理直前)	晩腐病 黒とう病 べと病 褐斑病	・ジマンダイセン水和剤	○ チャイロコガネが加害する地域では、アグロスリン水和剤又はアディオン水和剤を散布する。
6月上旬 (第2回 ジベレリ ン処理 後)	晩腐病 黒とう病 べと病 枝膨病 灰色かび病	・アミスター10フロアブル	○ 晩腐病が多い園では、第2回ジベレリン処理後なるべく早くかさがけ又は袋かけを行う。 ○ ダントツ水溶剤は袋かけ前までの幼果期に散布すると、品種によっては果粉が溶脱するおそれがあるので袋かけ後に使用する。
	ブドウトラカミキリ	・ダントツ水溶剤	
6月中旬	晩腐病 褐斑病 べと病 黒とう病	・オーソサイド水和剤80	○ ジベレリン処理のものは、この時期から収穫までボルドー液、乳剤、展着剤などを使用しない。 ○ べと病の発生が多い園では、発生前又は発生初期までにランマンフロアブルを散布する。果粒大豆大期以降は、薬剤が直接果実にかかる果粉の溶脱が起こることがあるので、袋かけ後に散布する。
7月上旬	晩腐病 褐斑病 べと病	・ストロビードライフフロアブル	○ ブドウトラカミキリの防除のため剪定枝は7月中旬までに完全に処分する。 ○ ストロビードライフフロアブルは、品種ロザリオピアンコには葉に薬害が生じるので使用しない。
7月下旬	コガネムシ類 フタテンヒメヨコ バイ	・アディオン水和剤	○ 加害の多い園では、散布回数を増やす。 ○ スタークル/アルバリン顆粒水溶剤はフタテンヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマに使用できる。

注1) 10a 当たり散布量は200～300ℓとする。 注2) デラウェア以外の品種(キャンベル・アーリー、パッファロー、スチューベン、ヒムロッド・シードレスなど)はこの防除指針を準用する。

イ 巨峰(露地栽培)

時期	対象病害虫	防除法	注意事項
9月中旬 (収穫直後)	べと病 さび病	・ICボルドー66D	○ ハスモンヨトウの発生が多い場合にはフェニックス顆粒水和剤を散布する。
12月～ 2月(休眠期)	晩腐病 褐斑病 黒とう病 ブドウトラカミキリ ブドウスカシバ コナカイガラムシ類	・巻ひげ、取り残し果梗の除去 ・被害枝の剪除 ・粗皮削り	○ ブドウトラカミキリの幼虫は、結果母枝の芽の近くにいるので捕殺する。 ○ ブドウスカシバの1年生枝の被害部は、黒褐色に変色しているので除去する。
3月中旬	ブドウトラカミキリ	・ラビキラー乳剤 又はガットキラー乳剤 又はサッチューコートS	○ ラビキラーは母枝、古つるに、ガットキラーは樹幹部及び主枝に薬液を散布する。 サッチューコートSは樹幹部及び主枝に散布又は塗布する。
3月下旬～ 4月上旬 (萌芽前)	黒とう病 晩腐病 越冬病害虫	・チオノックフロアブル ・石灰硫黄合剤	
5月上旬 ～中旬	黒とう病 枝膨病 べと病	・デランフロアブル	○ 前年にフタテンヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマが発生した園では、第1世代幼虫の薬剤防除としてモスピラン顆粒水溶剤またはコテツフロアブルを散布する。クワコナカイガラムシが発生した園ではモスピラン顆粒水溶剤を使用する。
5月下旬 (開花直前)	黒とう病 褐斑病 晩腐病 べと病	・ジマンダイセン水和剤	○ べと病多発園では、発生前又は発生初期までにランマンフロアブルを散布する。果粒大豆大期以降は、果実に直接薬剤がかかると果粉の溶脱が起こることがあるので、袋かけ後に散布する。 ○ うどんこ病には6月上旬～7月中旬にEBIであるトリフミン水和剤、マネージDFのいずれかを散布する。 ○ チャノキイロアザミウマの多発園では、アーデント水和剤又はディアナWDGを散布する。
	灰色かび病 黒とう病	・ロブラール水和剤	
6月中旬 (落花直後)	黒とう病 晩腐病 枝膨病 べと病	・アミスター10フロアブル	○ チャノキイロアザミウマの多発園では、アーデント水和剤又はディアナWDGを散布する。
	チャノキイロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ	・ベストガード水溶剤	
6月下旬 (幼果期)	晩腐病 褐斑病 べと病 黒とう病	・ホライズンドライフロアブル	○ ダントツ水溶剤はフタテンヒメヨコバイにも有効である。 ○ ホライズンドライフロアブルは、果粒小豆大期以降は、薬剤が直接果実にかかると果粉の溶脱が起こることがあるので注意する。
	コガネムシ類成虫	・ダントツ水溶剤	
7月上中旬 (果粒肥大期)	べと病 褐斑病 晩腐病 黒とう病	・オーソサイド水和剤80	
7月下旬 ～8月上旬	晩腐病 褐斑病 枝膨病 べと病 黒とう病	・ストロビードライフロアブル	
	コガネムシ類 フタテンヒメヨコバイ	・アディオオン水和剤	

注)10a 当たり散布量は200～300gとする

農薬登録情報（農薬名順）

- [殺菌剤](#)
- [殺虫剤](#)
- [展着剤及びフェロモン剤](#)

農薬登録情報（RACコード順）

- [殺菌剤](#)
- [殺虫剤](#)
- [展着剤及びフェロモン剤](#)